

平成 18 年 9 月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 97 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 73 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

[火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、南岳山頂火口から 6 日と 20 日に爆発的噴火があったほか、小規模な噴火が時々発生しています。昭和火口からの噴火はありませんでした。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。

三宅島では、噴煙活動が活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

浅間山では、火山活動が静穏な状態になったことから、22 日にレベルを 2 (やや活発な火山活動) から 1 (静穏な火山活動) に引き下げました。

なお、箱根山では、一時的な地震の増加がみられましたが、火山活動は静穏な状態です。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 18 年 8 月～平成 18 年 9 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2006/goudou1010.htm>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 9 月号(10 月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 18 年 10 月の地震活動及び火山活動については、平成 18 年 11 月 7 日に発表の予定です。

2006年9月の主な地震活動^{注1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考/コメント
1	9月1日	7時58分	奄美大島近海	55	5.4	3	
2	9月7日	3時06分	千葉県東方沖	38	5.1	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震
3	9月7日	10時57分	千葉県北西部	69	4.6	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震
4	9月26日	7時03分	伊予灘	70	5.3	4	フィリピン海プレート内で発生した地震
5	9月30日	0時37分	根室支庁中部	74	4.6	3	太平洋プレート内で発生した地震

注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上の地震、 海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動^{注2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考/コメント
10月2日	2時07分	宮城県沖	56	5.2	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震

注2)「その他の活動」とは、注1)の主な地震活動の基準に該当する地震で2006年10月中に発生したものを。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2006年9月25日に気象庁において第244回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

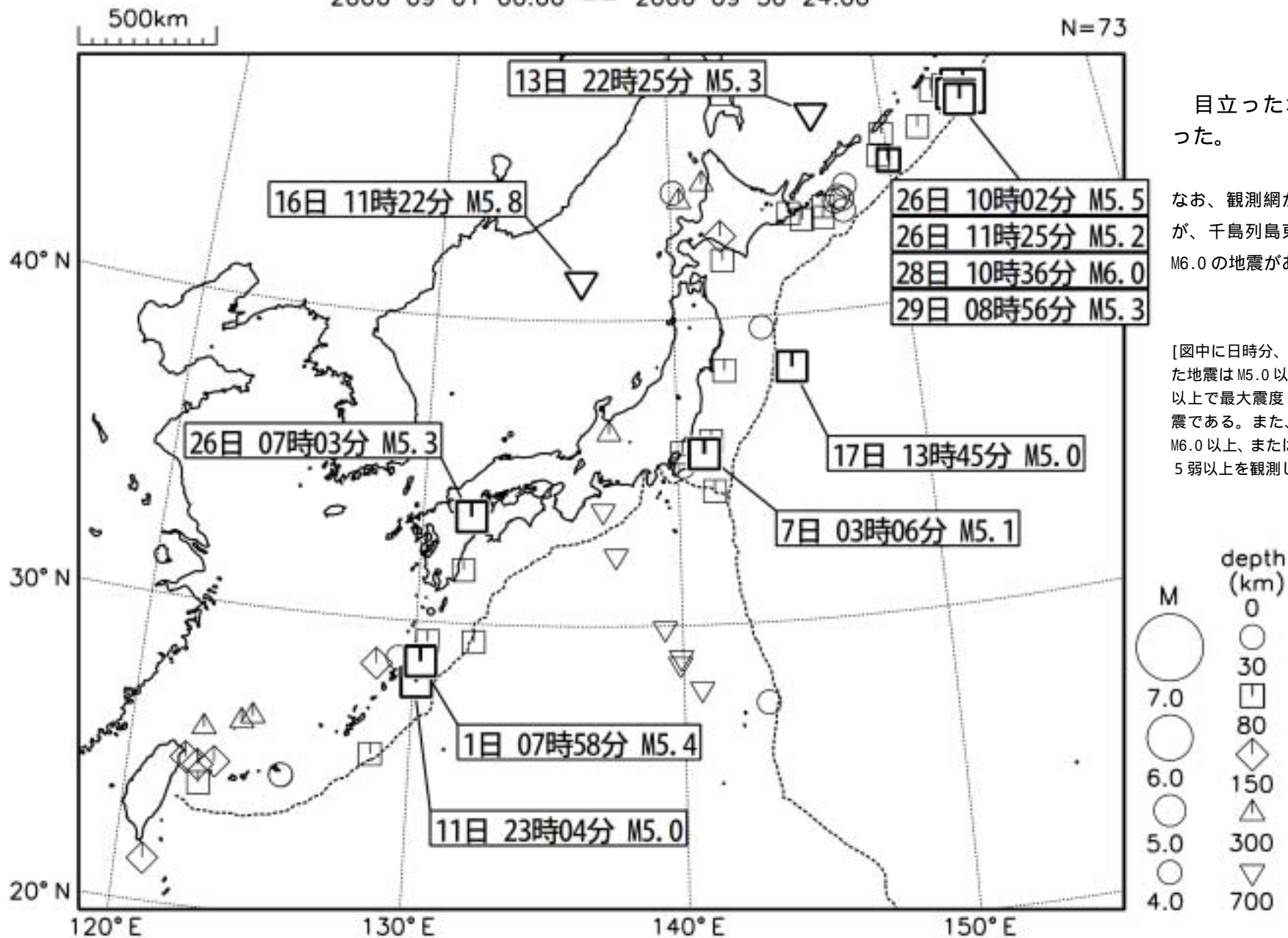
東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、8月末から9月初めに愛知県東部から長野県南部にかけてプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる地殻変動と低周波地震活動が観測されました。この付近では同様の現象が過去6年間に22回確認されており、今回は今年1月に観測されています。

2006年9月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

2006 09 01 00:00 -- 2006 09 30 24:00

N=73

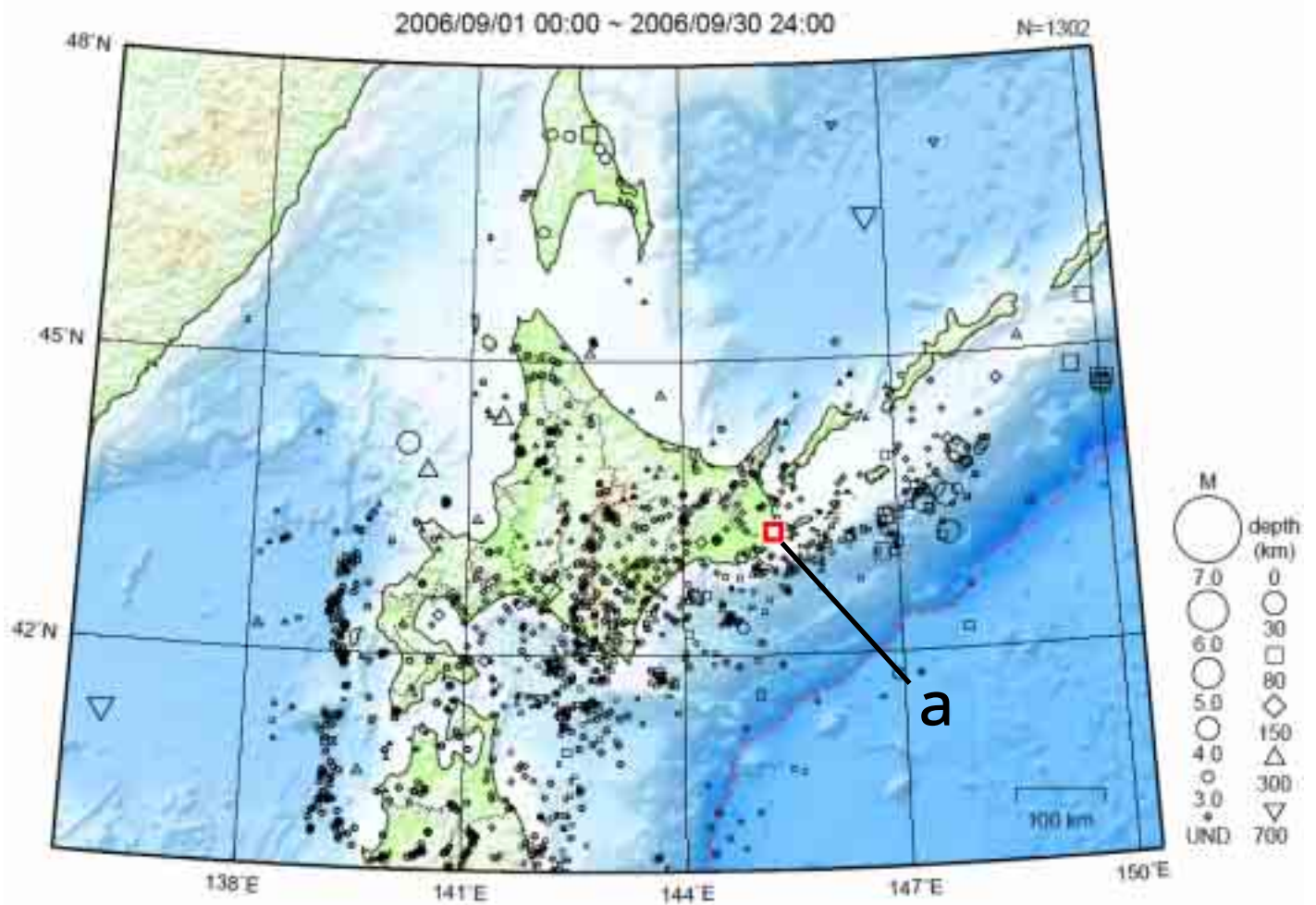


目立った地震活動はなかった。

なお、観測網からやや外れているが、千島列島東方で9月28日にM6.0の地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方



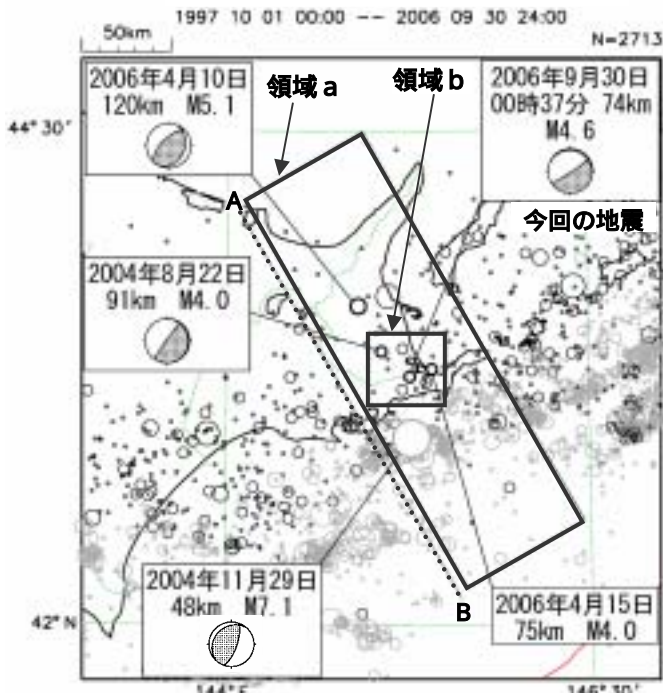
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

- a) 9月30日に根室・釧路支庁境界付近〔根室支庁中部〕で M4.6 (最大震度 3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

9月30日 根室・釧路支庁境界付近〔根室支庁中部〕の地震

A 震央分布図
(1997年10月以降、M 3.0、深さ30~200km)

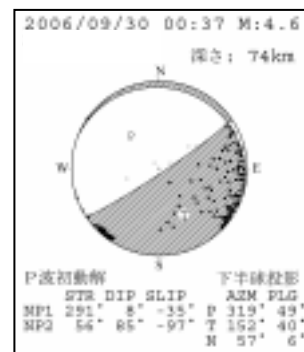


[]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

2006年9月30日00時37分に根室・釧路支庁境界付近〔根室支庁中部〕の深さ74kmでM4.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部(二重地震面の上面)で発生した地震である。余震は同日に2回観測されたのみであった。

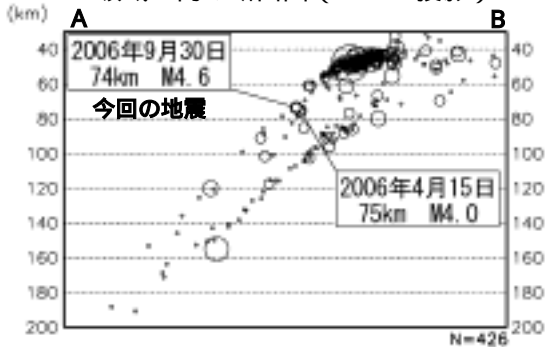
今回の震源付近では、2006年4月15日にM4.0(最大震度2)の地震が発生している(**A**)。

今回の地震の発震機構

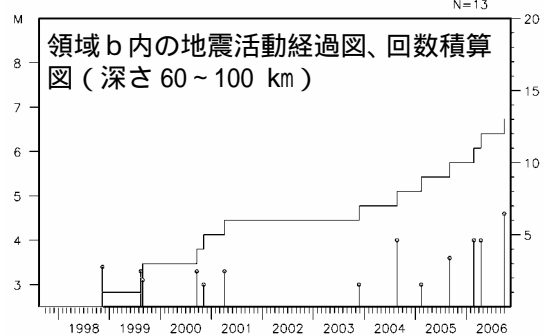


深さ60km以深を濃くプロットした。

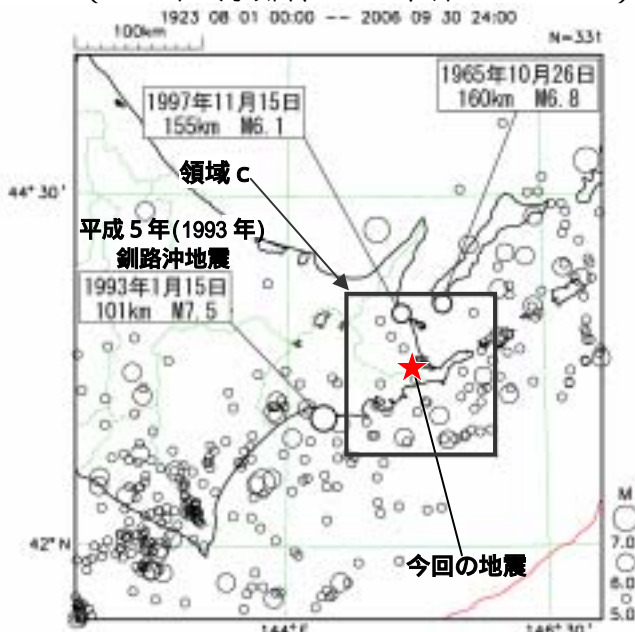
領域a内の断面図 (A-B投影)



1997 10 01 00:00 -- 2006 09 30 24:00 N=13

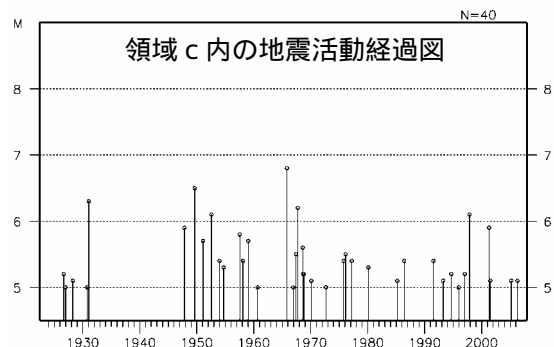


B 震央分布図
(1923年8月以降、M 5.0、深さ60~200km)

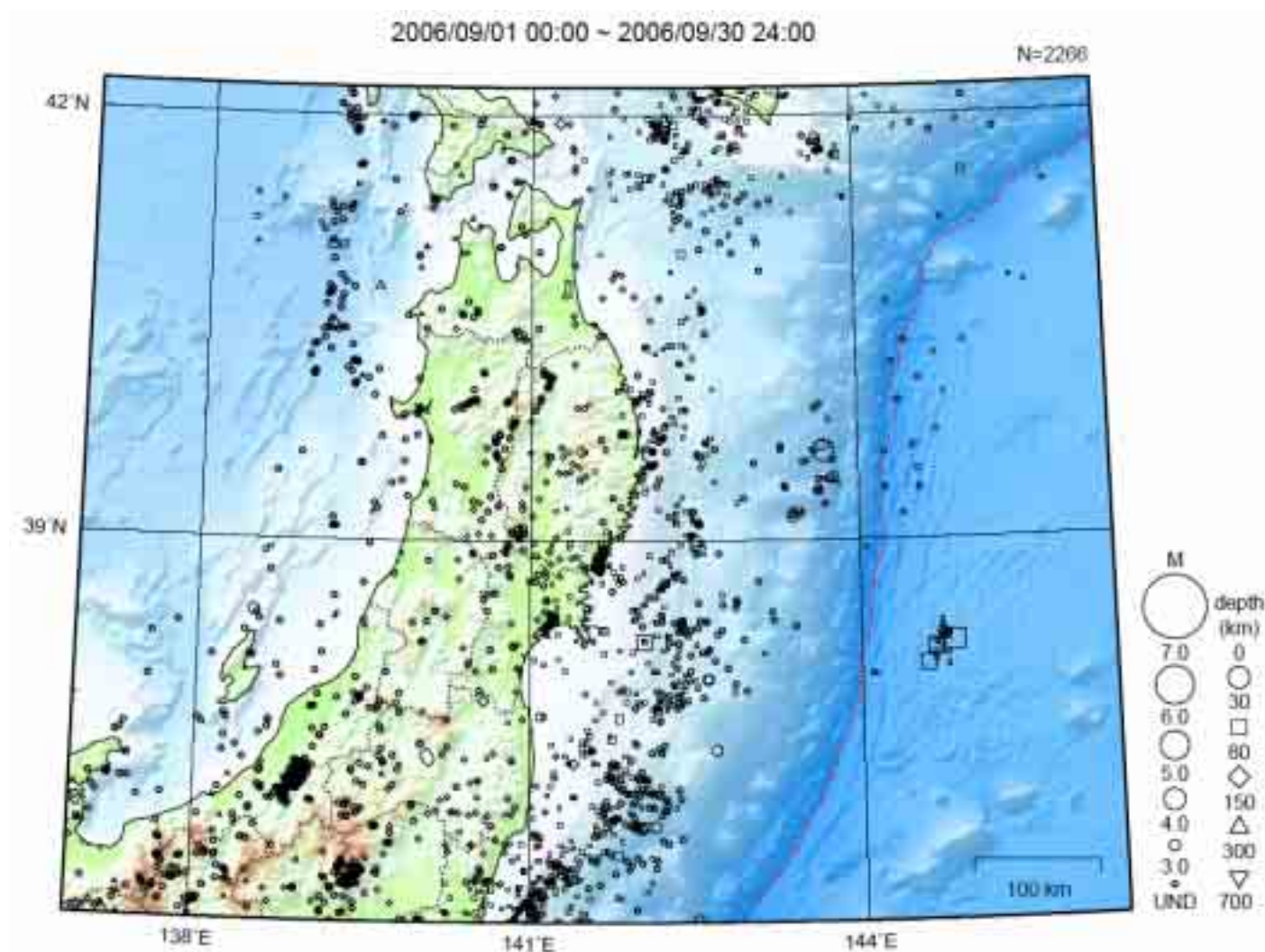


1923年8月以降、この付近では、M6クラスの地震が6回観測されており、最近では1997年11月15日にM6.1の地震(最大震度4)が発生している(**B**)。

1923 08 01 00:00 -- 2006 09 30 24:00 N=40



東北地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

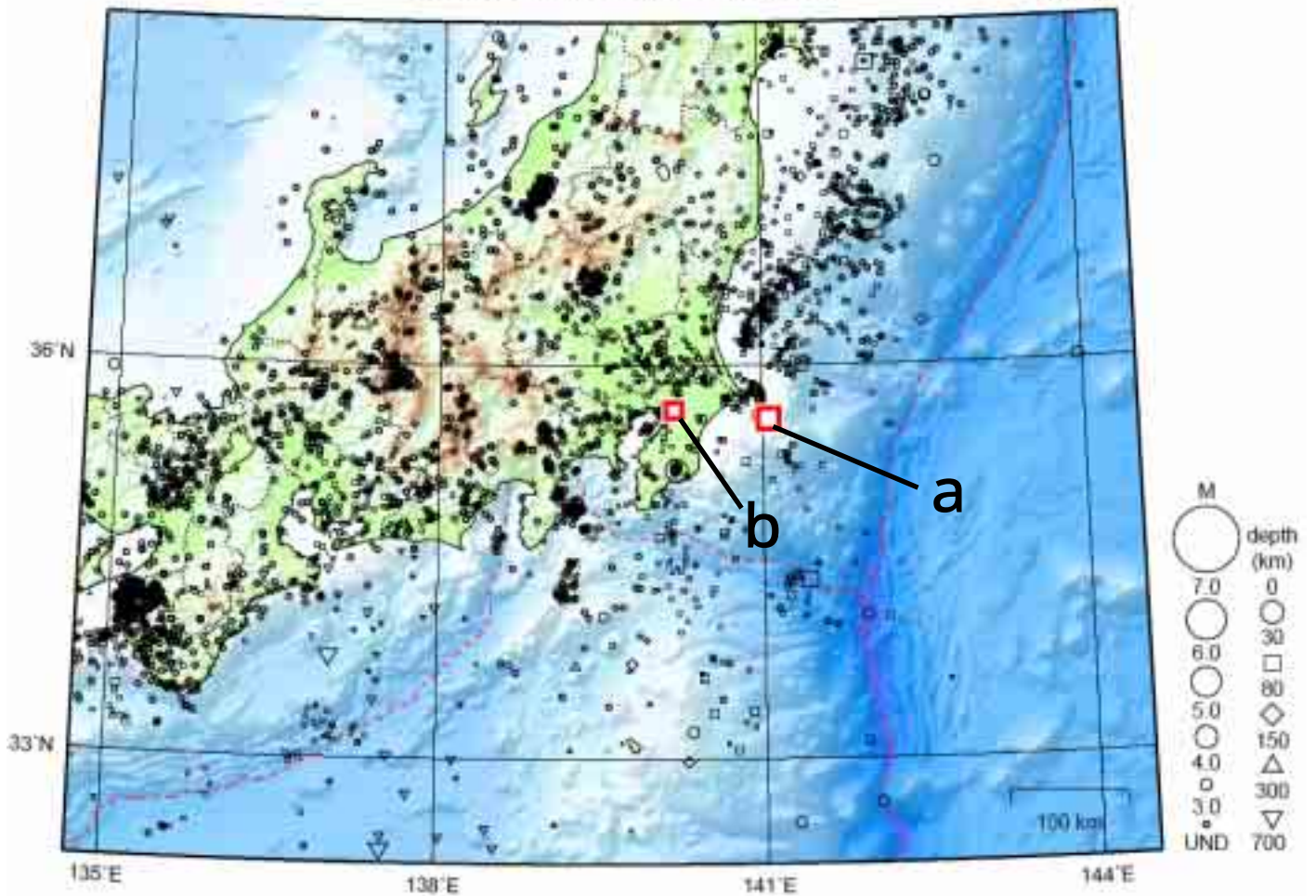
10月2日に宮城県沖で M5.2 (最大震度3) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

2006/09/01 00:00 ~ 2006/09/30 24:00

N=3876



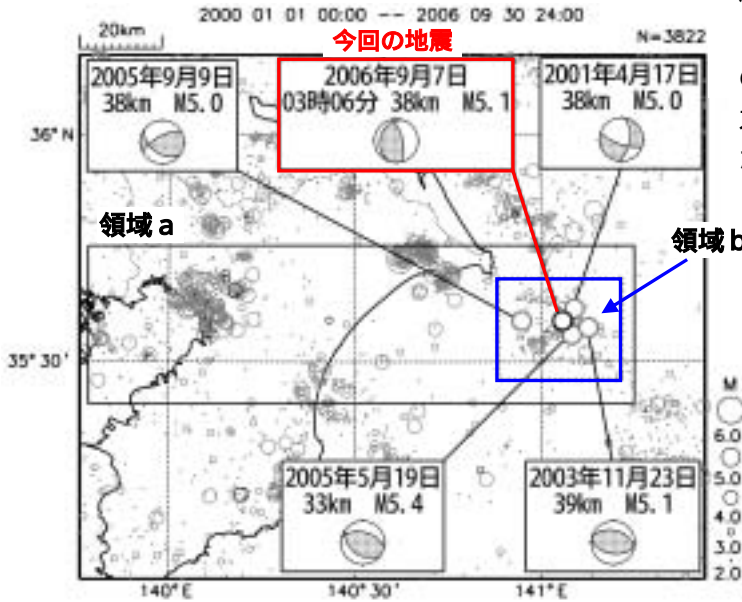
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

- a) 9月7日に千葉県東方沖で M5.1 (最大震度3) の地震があった。
- b) 9月7日に千葉県北西部で M4.6 (最大震度3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

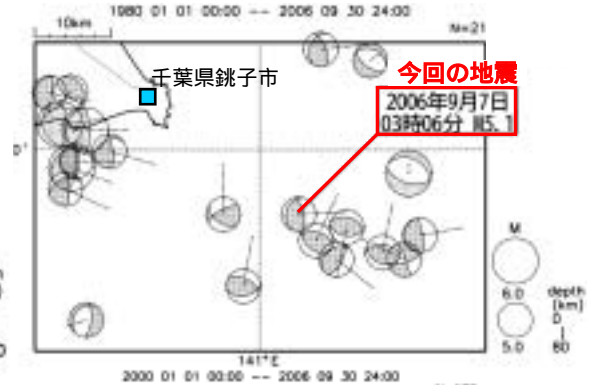
9月7日 千葉県東方沖の地震

A 震央分布図 (2000年1月以降、M 2.0)
 [2006年9月以降の活動を濃く表示している。]

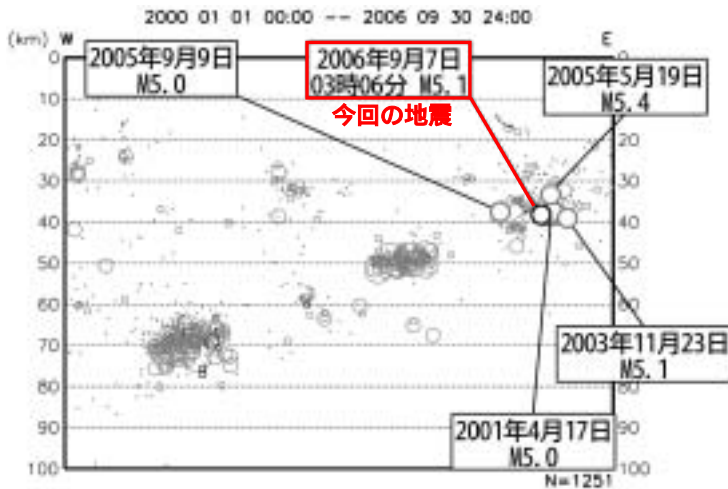


2006年9月7日03時06分に千葉県東方沖の深さ38kmでM5.1(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震と考えられる。今回の地震の震源付近では、2005年5月19日にM5.4(最大震度3)の地震が発生するなど、M5.0以上の地震が度々発生している。(A)

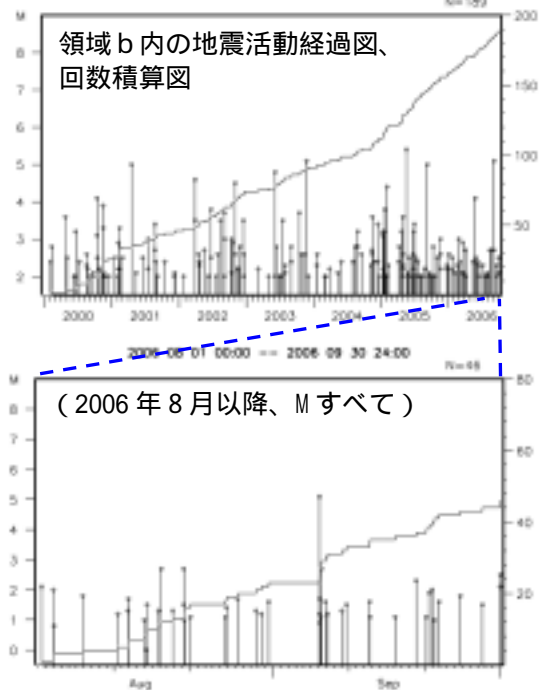
周辺の発震機構分布図 (1980年以降、M 5.0)



領域 a 内の東西断面図



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

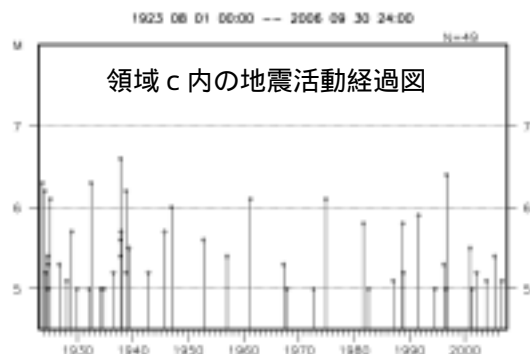


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



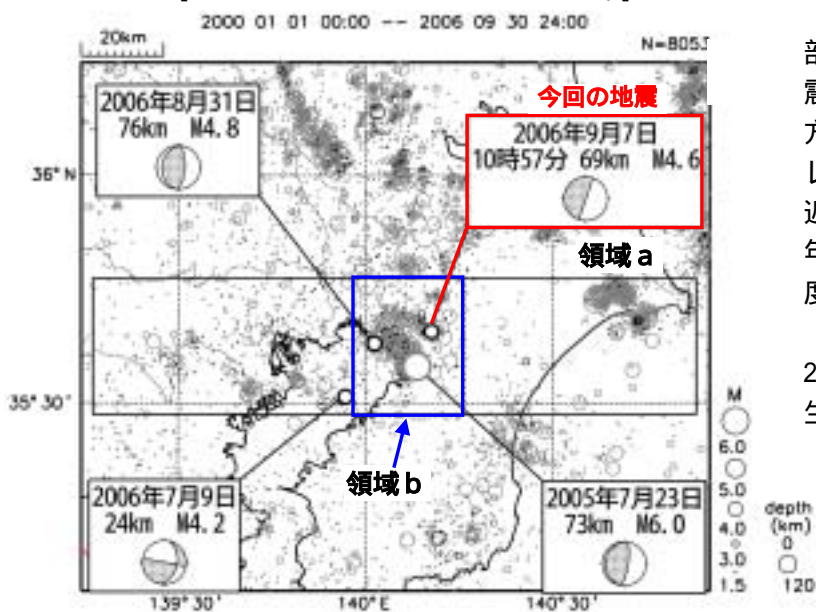
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0以上の地震が時々観測されており、最近では1996年9月11日にM6.4(最大震度5)の地震が発生している。(B)

領域 c 内の地震活動経過図

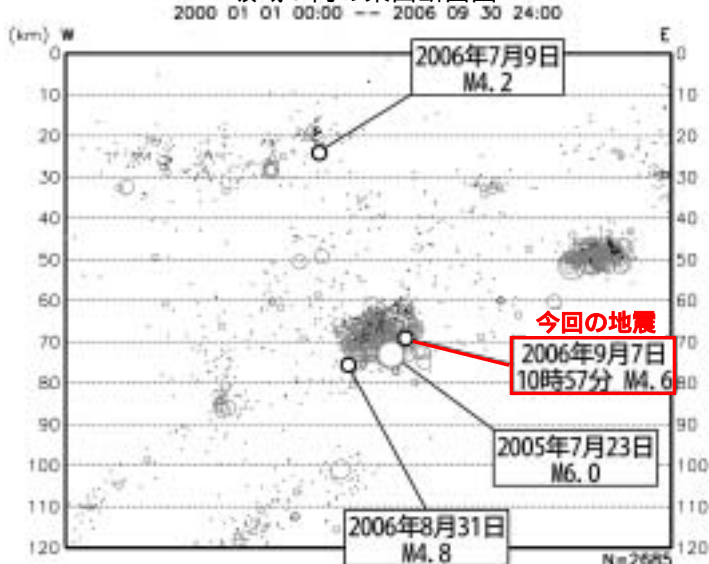


9月7日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (2000年1月以降、M 1.5)
 [2006年7月以降の活動を濃く表示している。]

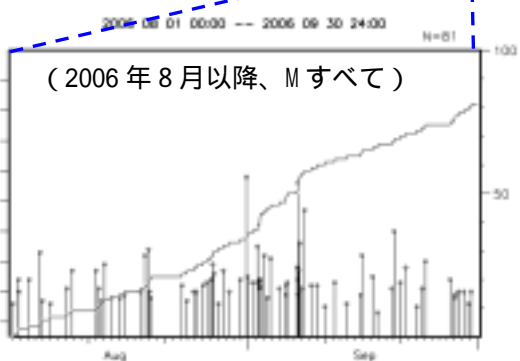
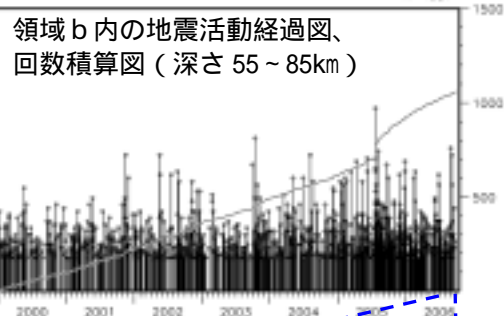


領域a内の東西断面図

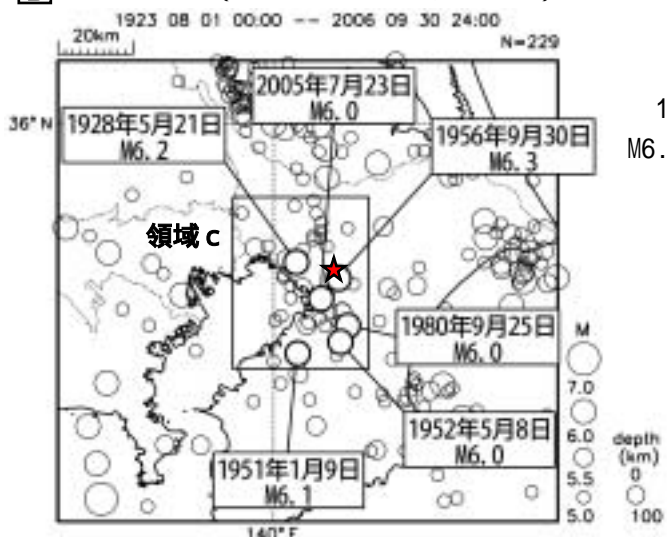


2006年9月7日10時57分に千葉県北西部の深さ69kmでM4.6 (最大震度3) の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。付近では、2006年8月31日17時18分にもM4.8 (最大震度4) の地震が発生している。

今回の地震の震源付近では、2005年7月23日にM6.0 (最大震度5強) の地震が発生している。(**A**)

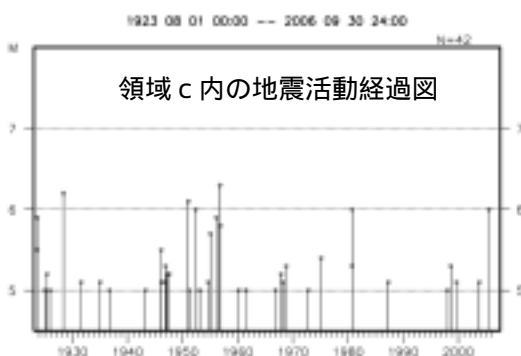


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



★: 今回の地震の震央位置

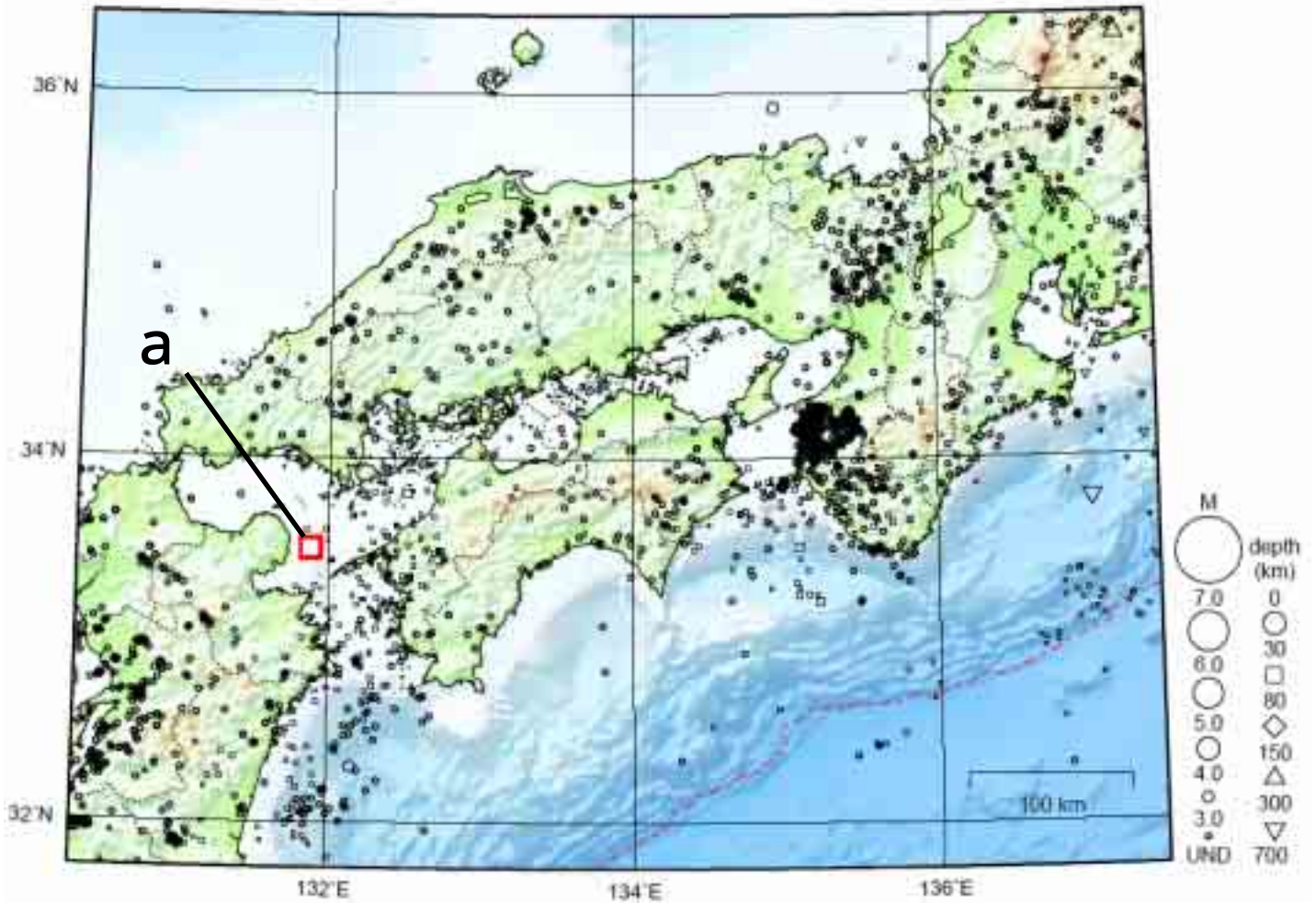
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0以上の地震が6回観測されている。(**B**)



近畿・中国・四国地方

2006/09/01 00:00 - 2006/09/30 24:00

N=2488



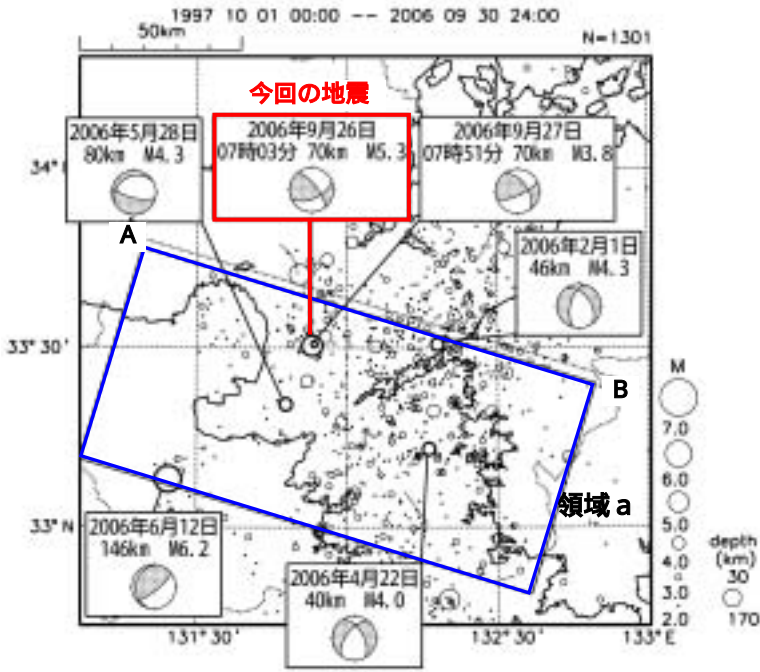
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

a) 9月26日に伊予灘で M5.3 (最大震度4) の地震があった。

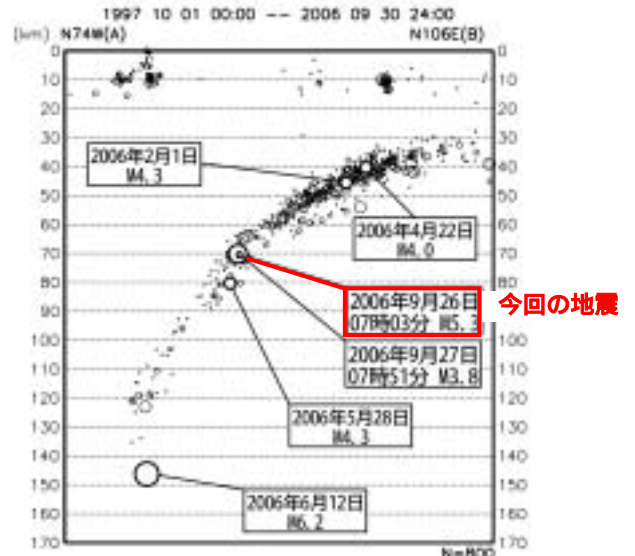
[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

9月26日 伊予灘の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0、深さ30~170km)

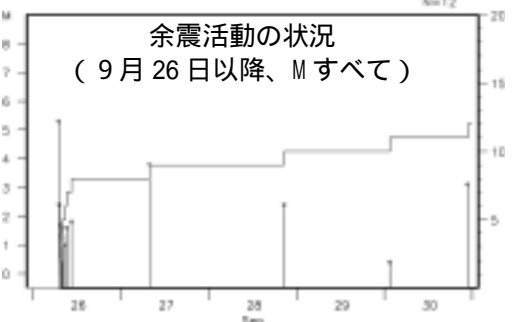
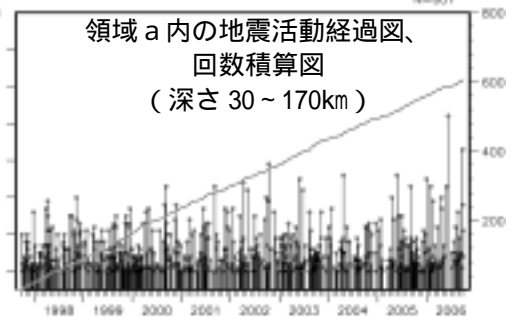


領域 a 内の断面図 (A - B 投影)

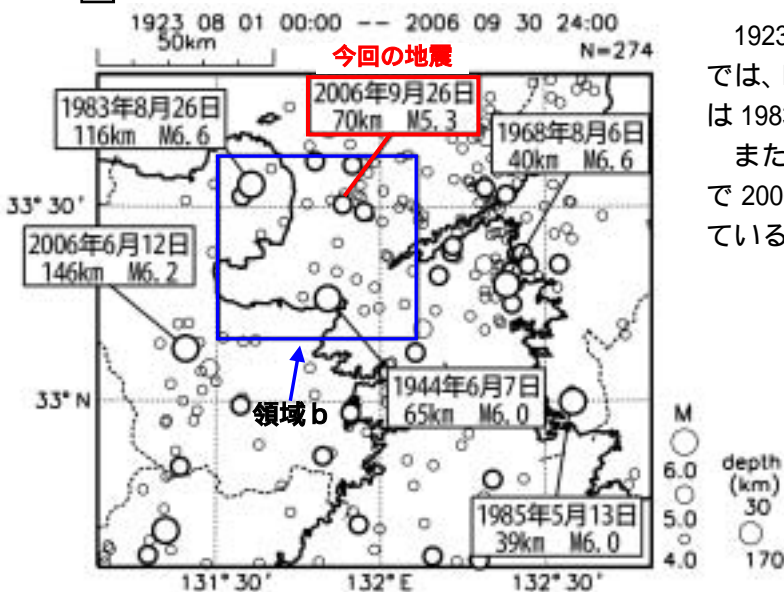


2006年9月26日07時03分に伊予灘の深さ70kmでM5.3(最大震度4)の地震が発生した。フィリピン海プレート内部の地震である。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型である。余震は地震発生直後数時間で7回観測された。その後27日07時51分にM3.8の地震(最大震度2)、30日22時48分にM3.1の地震(最大震度1)が発生している。

今回の地震の震源付近では、ほぼ定常的に地震活動があり、M4~5程度の地震が時々発生している。最近では2006年5月28日に深さ80kmでM4.3(最大震度3)の地震が発生している。(A)

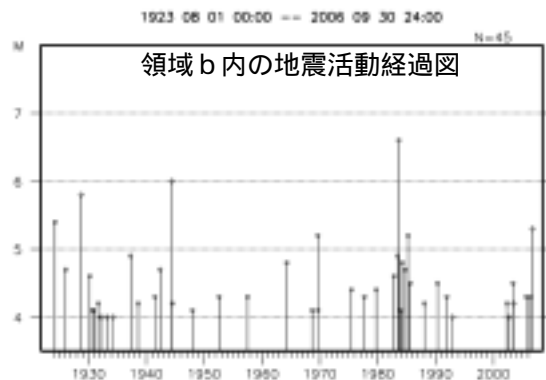


B 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M4.0を超える地震が時々発生している。最大の地震は1983年8月26日に深さ116kmでM6.6の地震である。

また、少し離れてはいるが同じフィリピン海プレート内で2006年6月12日に深さ146kmでM6.2の地震が発生している。(B)

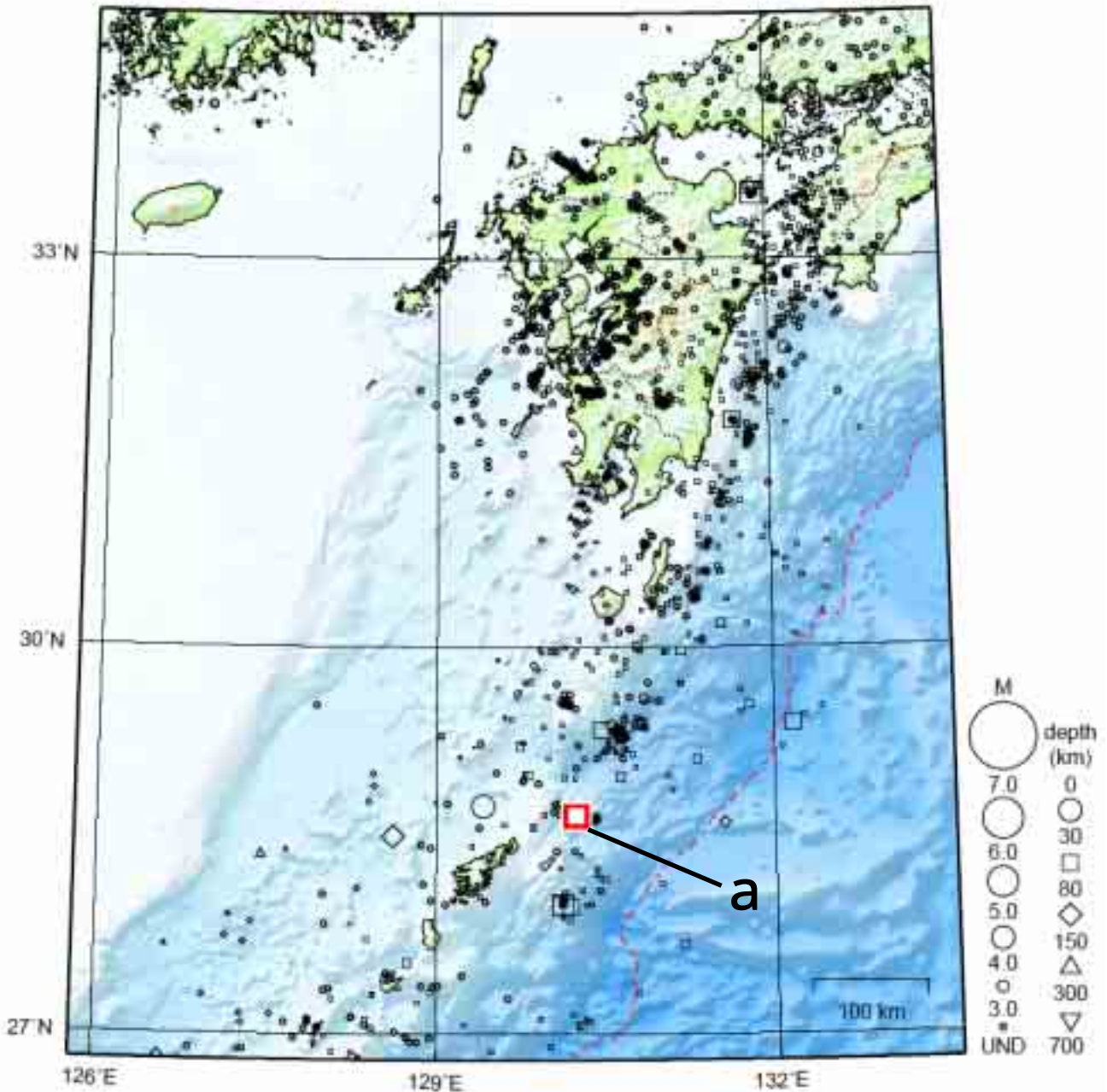


M5.0以上を濃くプロットし、M6.0以上および今回の地震に吹き出しを付けた

九州地方

2006/09/01 00:00 ~ 2006/09/30 24:00

N=1843



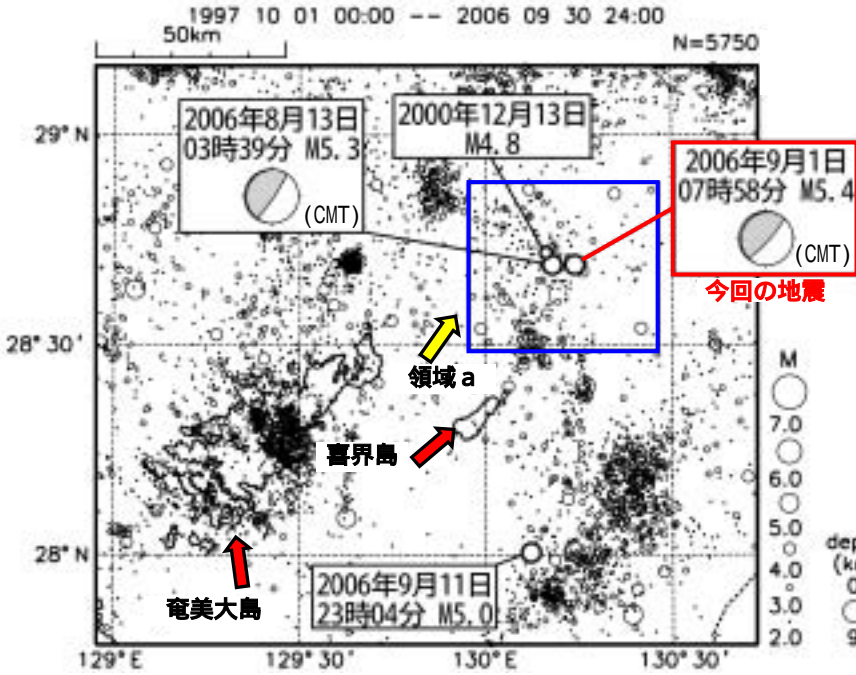
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

a) 9月1日に奄美大島近海で M5.4 (最大震度3) の地震があった。

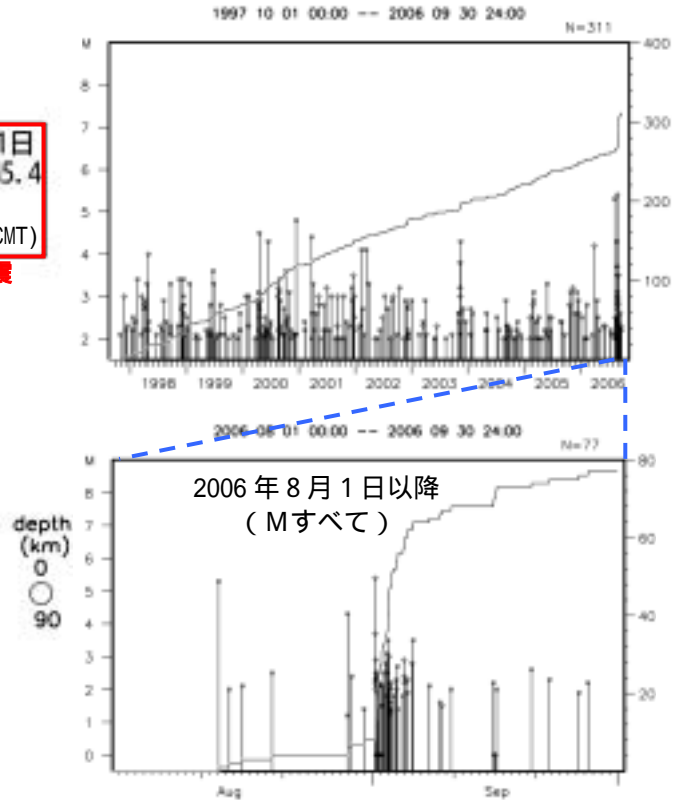
[上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

9月1日 奄美大島近海の地震活動

A 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)

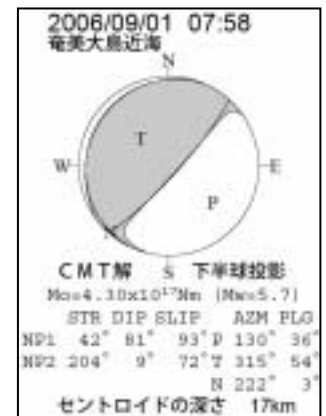
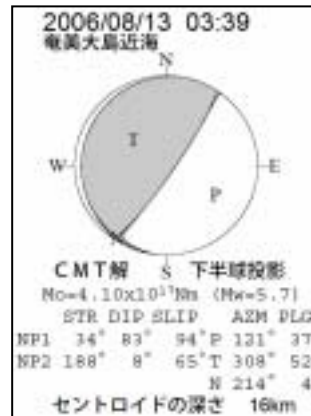


領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



2006年9月1日07時58分に奄美大島近海でM5.4(最大震度3)の地震が発生した。余震活動は1週間程度で主な活動は収まったが、9月30日現在M2.0を超える地震が数日に1回程度発生している。この地震のすぐ西側では8月13日にM5.3(最大震度3)の地震が発生しているが、この地震の余震活動は低調であった。この2つの地震の発震機構(CMT解)は概ね北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

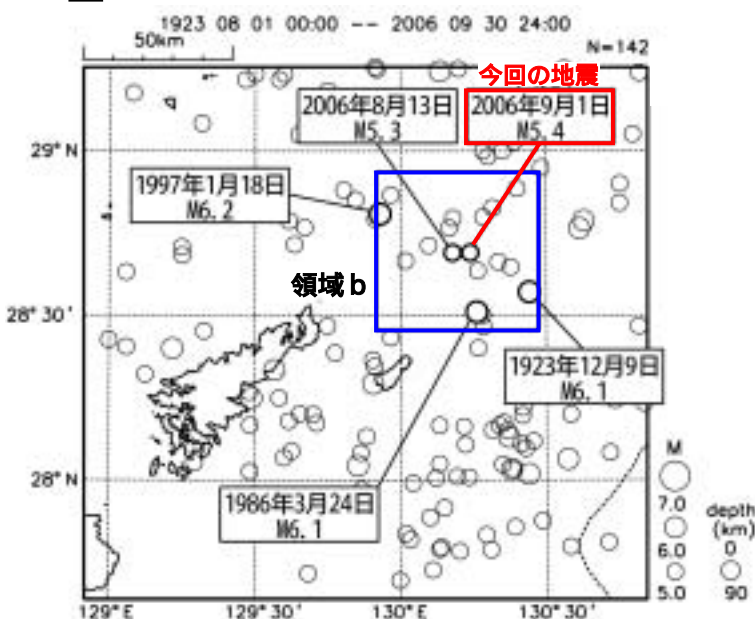
今回の地震の震源付近では、2000年12月13日にM4.8(最大震度2)の地震が発生するなど、M5クラスの地震が時々発生している。(A)



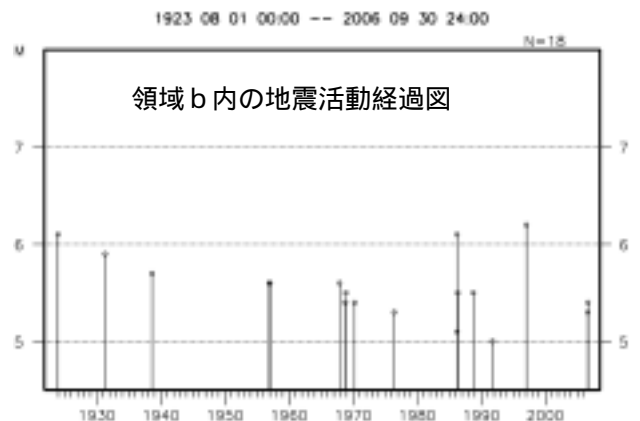
発震機構 (気象庁CMT解)

1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近ではM6.0以上の地震は3回発生している。最大は1997年1月18日のM6.2である。(B)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



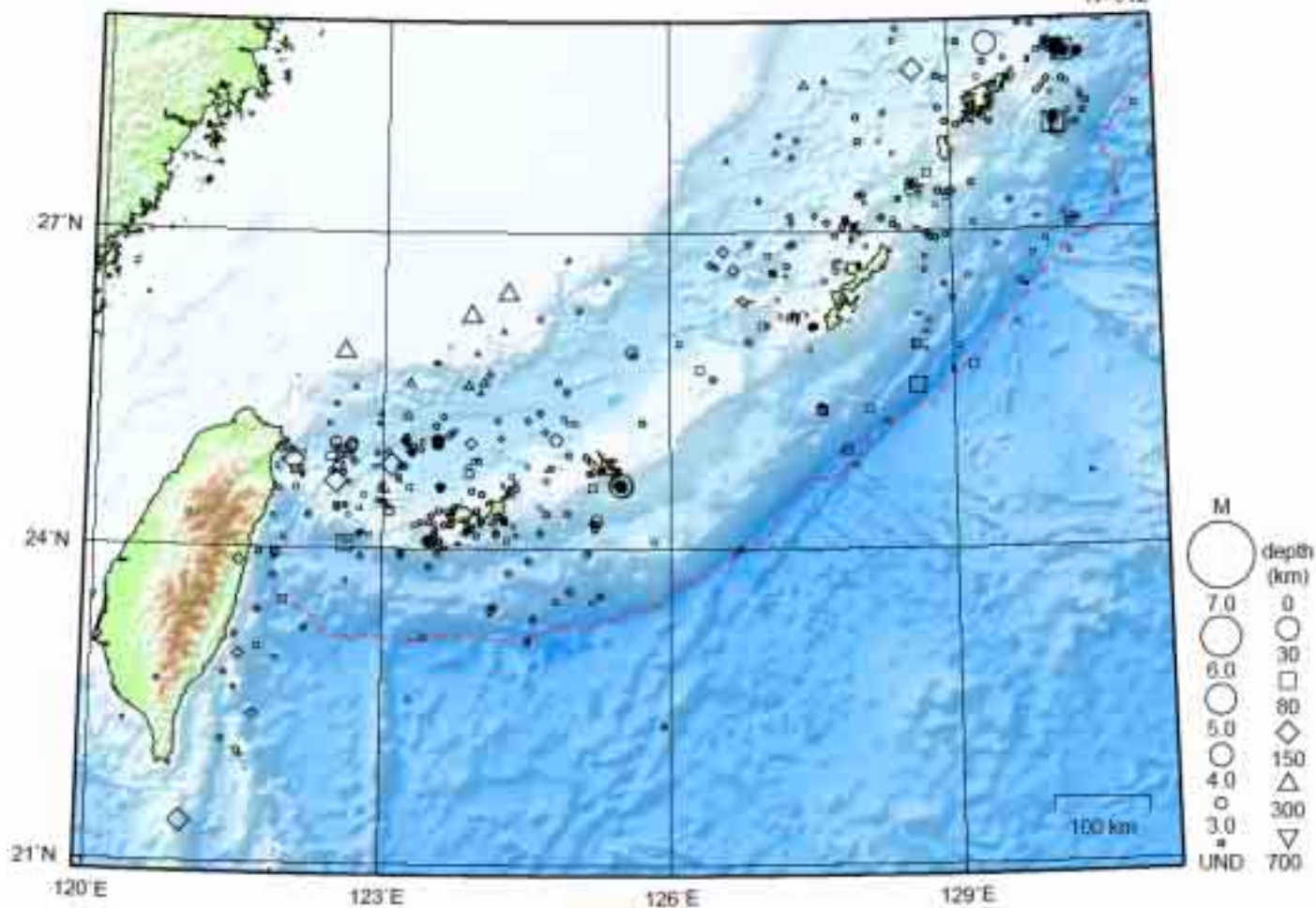
領域 b 内の地震活動経過図



沖縄地方

2006/09/01 00:00 ~ 2006/09/30 24:00

N=612



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

特に目立った活動はなかった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

9月25日に気象庁において第244回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図2~3)

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

なお、8月末から9月初めに愛知県東部から長野県南部にかけてプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる地殻変動と低周波地震活動が観測されました。この付近では同様の現象が過去約6年間に22回確認されており、今回は今年1月に観測されています。

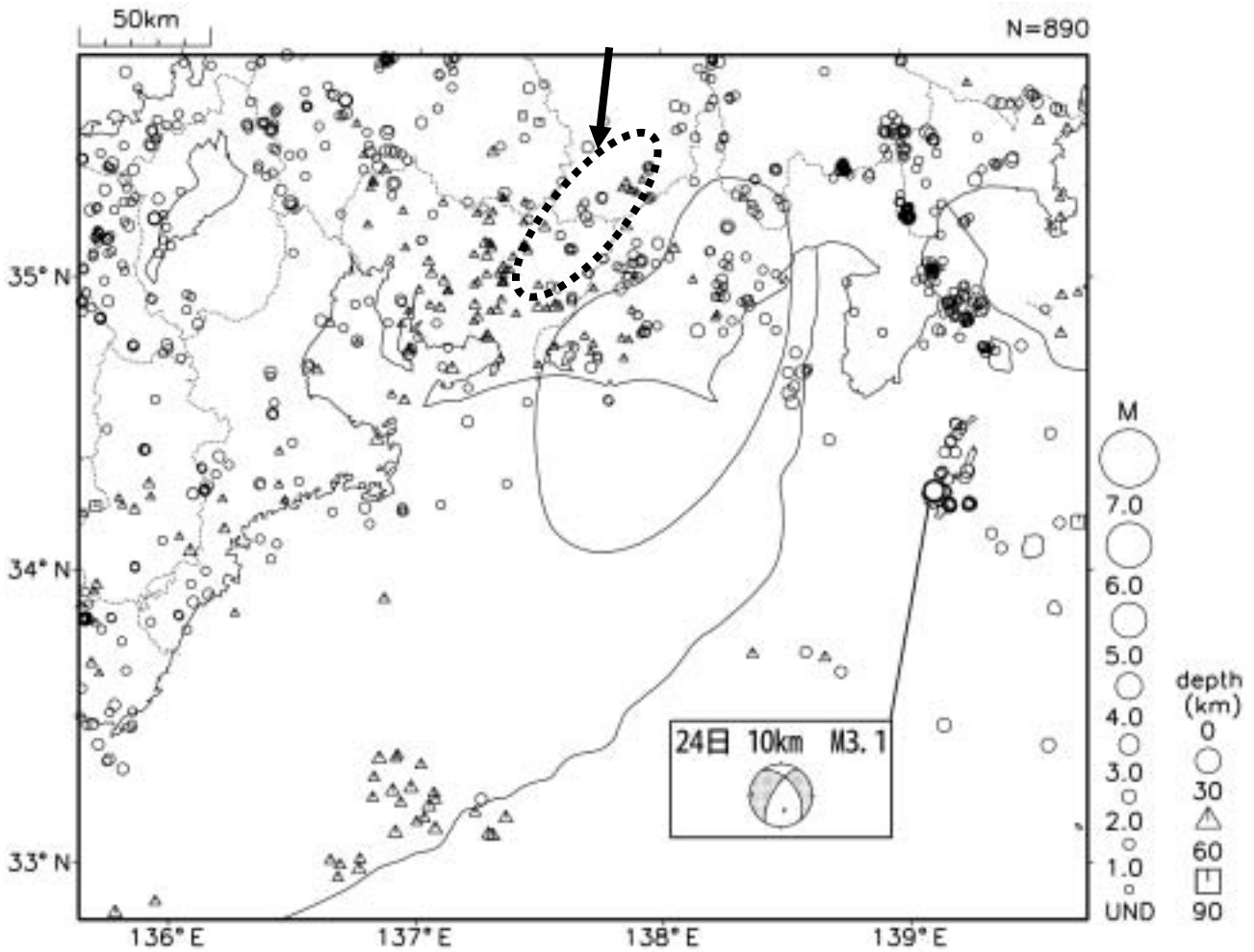


図1 震央分布図(2006年9月1日~30日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

24日18時42分、新島・神津島近海の深さ10kmでM3.1の地震があり、最大震度3を観測した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ

つ正断層型であった。8月27日頃から9月1日頃にかけて、愛知・長野県境付近下のプレート境界の短期的なゆ

っくり滑りに起因すると見られる、歪変化と低周波地震活動が観測された。(平成 18 年 8 月地震・火山月報(防災編)を参照。この現象の詳細については、平成 17 年 7 月地震・火山月報(防災編)を参照。)

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1)と「固着域」(図 2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図 2, 3)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 174 市町村(平成 18 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2006年9月20日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	6	6	7	5	4	1	1	3
短期地震回数 (平均)	9 (6.34)	9 (5.90)	8 (4.49)	15 (12.63)	1 (2.38)	1 (5.91)	0 (3.53)	4 (6.11)
中期活動指数	6	7	6	4	1	0	0	4
中期地震回数 (平均)	25 (19.03)	25 (17.69)	18 (13.46)	38 (37.90)	1 (4.76)	2 (11.82)	1 (7.06)	12 (12.22)

* Mしきい値：

M \geq 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M \geq 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

1991年—2000年（10年間）：駿河湾

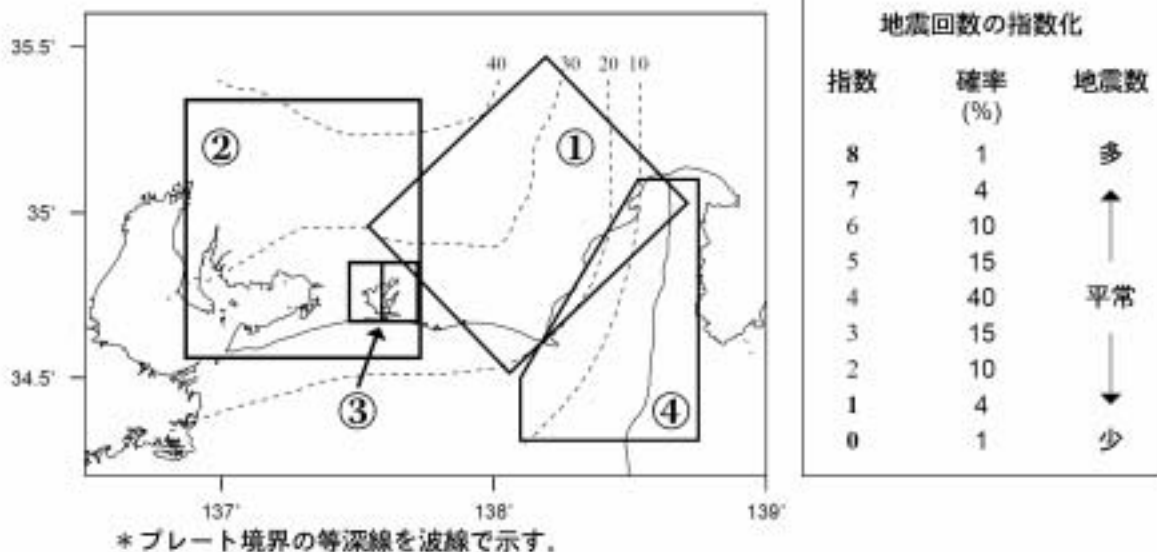
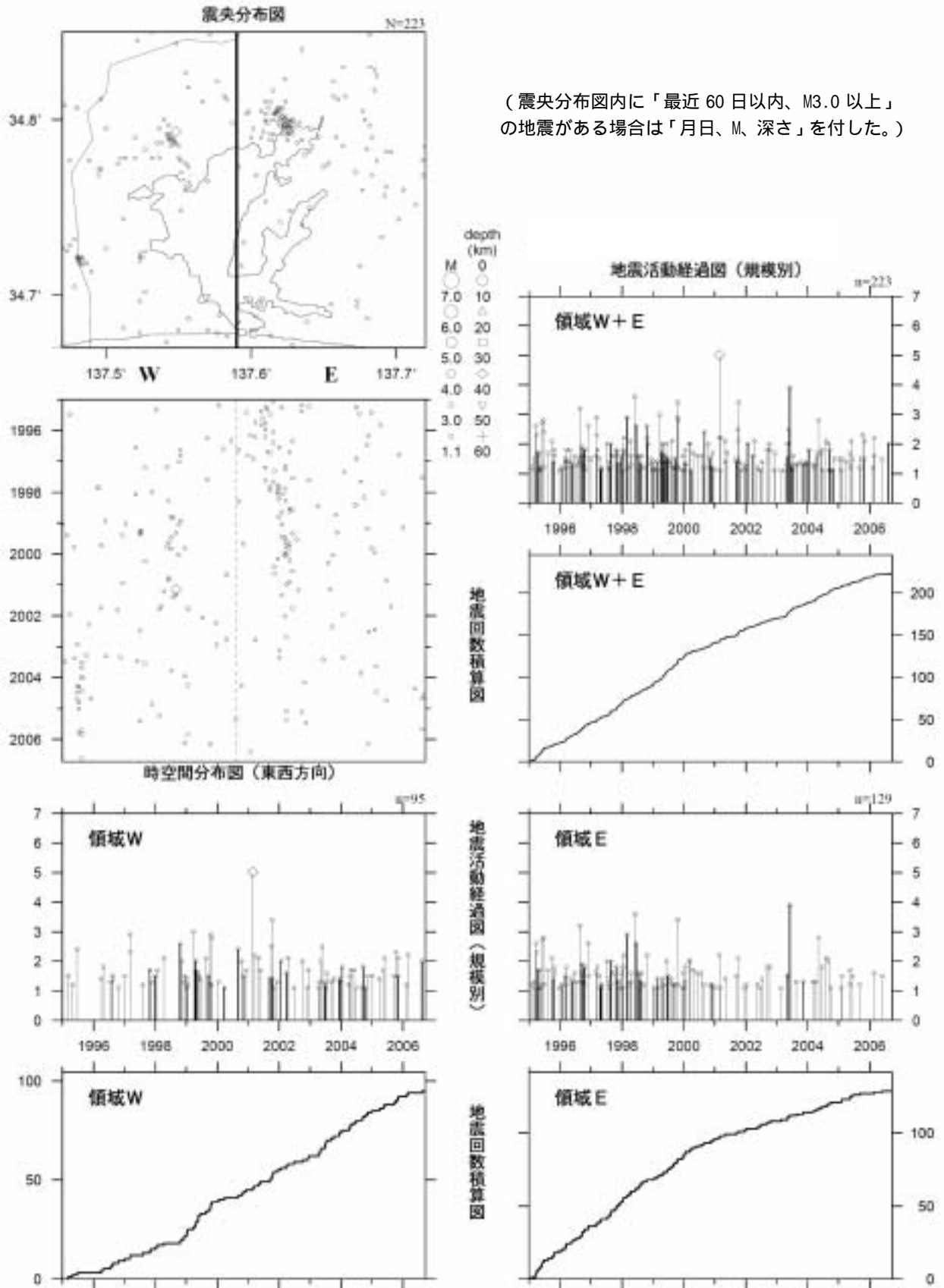


図2 東海地域の地震活動指数

浜名湖は、活動指数の低い状態が続いている。中期の指数を見ると、固着域フィリピン海プレート内がやや高いが、揺らぎと考えられる。短期の指数では、愛知県地殻内がやや高い傾向。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1-2006/ 9/20 M ≥ 1.1 *クラスタ除去したデータ



(震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。)

図3 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動
領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している。領域Wも最近では静かになっている。

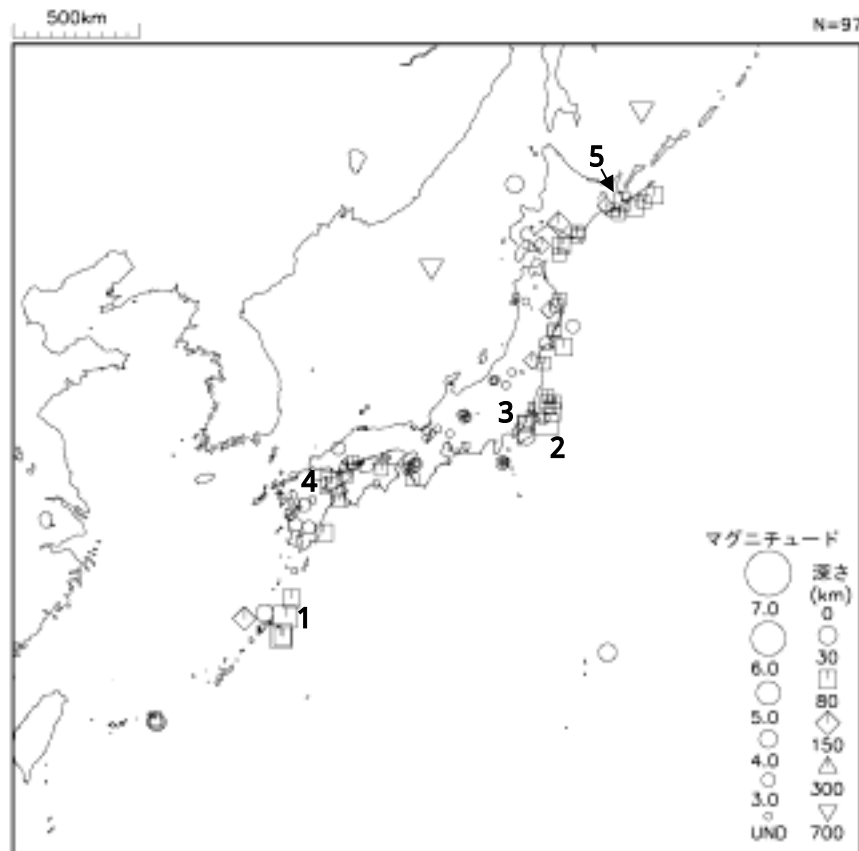


図1 2006年9月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

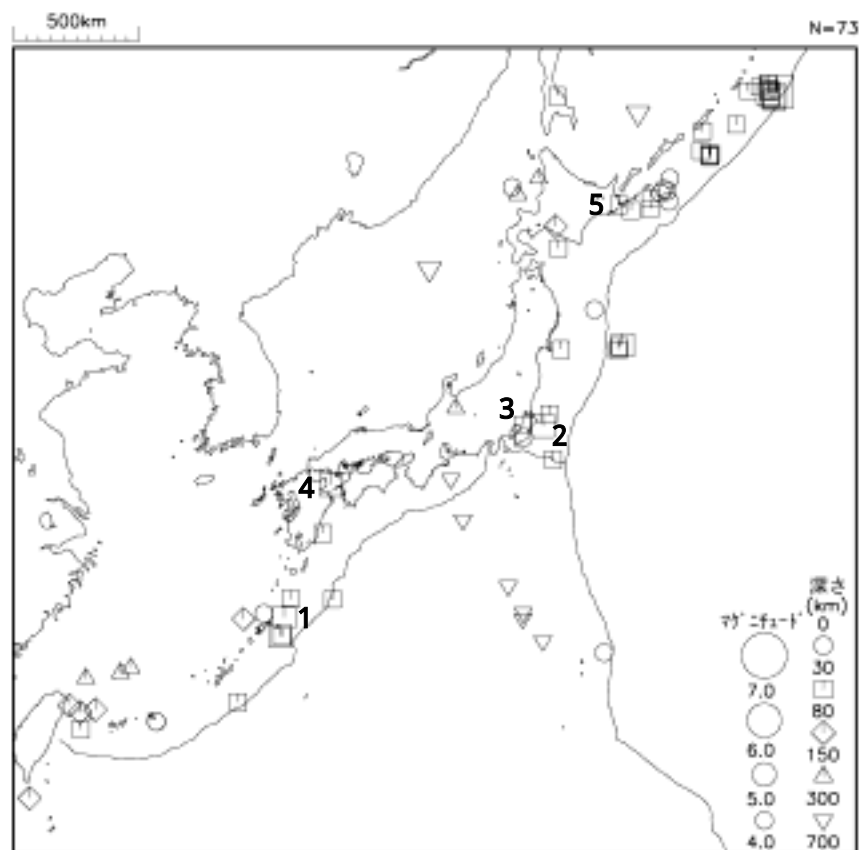


図2 2006年9月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

総数 : 8,145

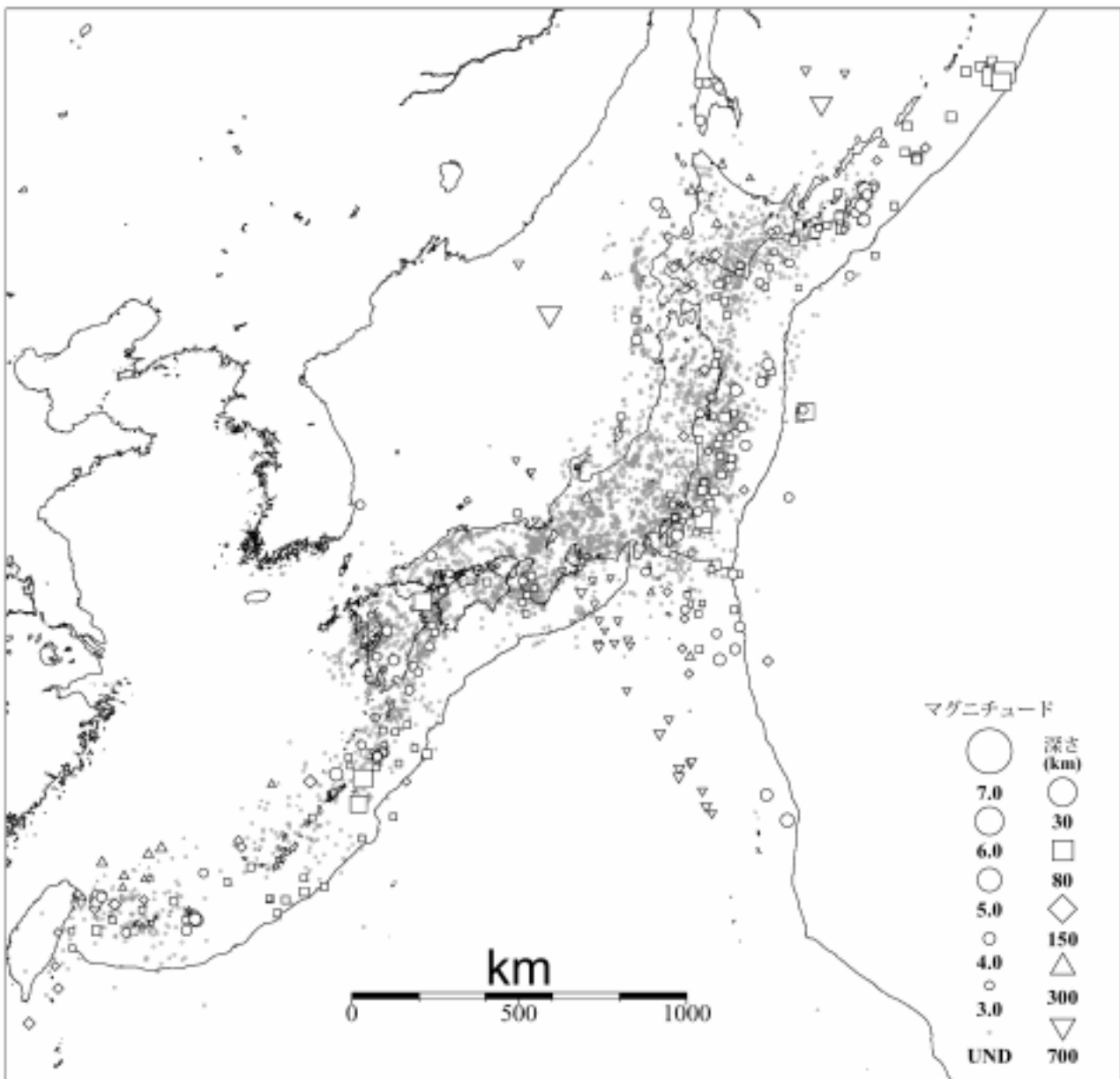


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2006年9月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
<平成 17 年(2005 年) 9 月 ~ 平成 18 年(2006 年) 9 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 9 月	64	21	11	1						97	
2006年 8 月	63	22	8	1						94	
2006年 7 月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海(震度 4 : 2 回、 震度 3 : 2 回、震度 2 : 5 回、 震度 1 : 15 回)
2006年 6 月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部(震度 5 弱)
2006年 5 月	81	20	6	2						109	
2006年 4 月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度 5 弱: 1 回、 震度 4 : 1 回、震度 3 : 4 回、 震度 2 : 6 回、震度 1 : 33 回)
2006年 3 月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度 5 弱)
2006年 2 月	44	30	3	4						81	
2006年 1 月	61	20	4	1						86	
2005年 12 月	58	28	10	3						99	
2005年 11 月	47	23	8	2						80	
2005年 10 月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖(震度 5 弱)
2005年 9 月	59	27	5	1						92	
2006年計	609	249	83	17	3					961	(平成 18 年 1 月 ~ 平成 18 年 9 月)
過去 1 年計	771	324	108	24	4					1231	(平成 17 年 10 月 ~ 平成 18 年 9 月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9 (1997) 年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成 10 (1998) 年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、

宮崎県、鹿児島県

平成 11 (1999) 年 7 月 21 日 東京都、長野県

平成 12 (2000) 年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3 月 28 日 滋賀県

7 月 18 日 富山県、香川県、大分県

平成 13 (2001) 年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県

平成 14 (2002) 年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7 月 29 日 北海道、長崎県

平成 15 (2003) 年 3 月 10 日 沖縄県

平成 16 (2004) 年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数
 <平成 17 年 (2005 年) 9 月 ~ 平成 18 年 (2006 年) 9 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 9 月	268	62	10	1		341	73	28日：千島列島東方 (M6.0)
2006年 8 月	264	57	10	1		332	68	7日：父島近海 (M6.2)
2006年 7 月	235	40	3	1		279	44	28日：台湾付近 (M6.2)
2006年 6 月	270	60	10	1		341	71	12日：大分県西部 (M6.2)
2006年 5 月	242	52	4			298	56	
2006年 4 月	270	90	13	2		375	105	1日：台湾付近 (M6.4) 16日：台湾付近 (M6.0)
2006年 3 月	287	66	9	1		363	76	28日：東海道沖 (M6.0)
2006年 2 月	254	66	6	2		328	74	15日：マリアナ諸島近海 (M6.6) 17日：父島近海 (M6.0)
2006年 1 月	265	52	5			322	57	
2005年12月	363	81	11	3		458	95	2日：宮城県沖 (M6.6) 4日：奄美大島近海 (M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0~3.9:45回、M4.0~4.9:7回、 M5.0~5.9:3回) 17日：宮城県沖 (M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9:64回、M4.0~4.9:4回)
2005年11月	534	94	8	1	1	638	104	15日：三陸沖 (M7.2) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9:277回、M4.0~4.9:27回) 22日：種子島近海 (M6.0)
2005年10月	310	67	8	4		389	79	15日：千島列島東方 (M6.4) 16日：与那国島近海 (M6.5) 19日：茨城県沖 (M6.3) 23日：日本海中部 (M6.1)
2005年 9 月	294	65	6	2		367	73	6日：台湾付近 (M6.0) 21日：国後島付近 (M6.0)
2006年計	2355	545	70	9		2979	624	(平成18年 1 月 ~ 平成18年 9 月)
過去 1 年計	3562	787	97	17	1	4464	902	(平成17年10月 ~ 平成18年 9 月)

注)日本及びその周辺：原則、北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

9月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。



図1 2006年9月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

表1 2006年9月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	09月01日19時18分	S 6° 44.8'	E155° 30.4'	38*	6.3	6.7	6.8	ソロモン諸島	NWPTA発表
2	09月04日01時34分	S14° 31.2'E	34° 16.8'	10*	3.8			マラウイ	住家被害
3	09月09日13時13分	S 7° 13.0'	E120° 05.7'	572	6.0		6.3	フロレス海	
4	09月16日18時45分	S 3° 06.5'	E129° 26.5'	17*	5.9	6.2	6.3	インドネシア,セラム島	
5	09月22日11時32分	S26° 47.0'W	63° 04.8'	598	6.0		6.0	アルゼンチン サンティアゴデルエステロ州	
6	09月28日10時36分	N46° 27.5'E	154° 00.2'	30		(6.0)	5.9	千島列島東方	
7	09月28日15時22分	S16° 36.7'W	172° 02.1'	28*	6.5	6.6	6.7	サモア諸島付近	最大波高16cmの津波を観測

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2006年10月5日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。

・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。

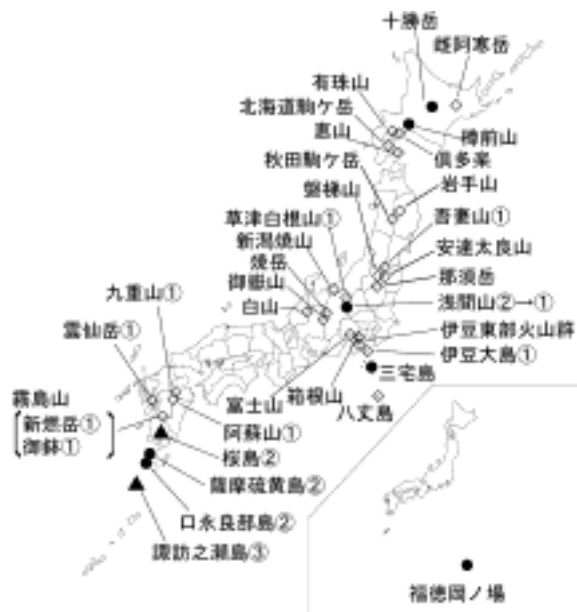
・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。

・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

平成 18 年 9 月の主な火山活動

記事を掲載した火山



注 1 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

注 2 記号の意味

- ：噴火した火山
 - ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
 - △：その他記事を掲載した火山
- 等丸付き数字：火山活動度レベル

注 3 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

【噴火した火山】**桜島** 【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

南岳山頂火口から 6 日と 20 日に爆発的噴火があったほか、小規模な噴火が時々発生した。昭和火口からの噴火はなかった。

諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

小規模な噴火が時々発生した。

【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】**十勝岳** 【やや活発な状況】

62-2 火口は依然として高温の状態が続いている。

樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群は依然として高温の状態が続いている。

三宅島 【やや活発な状況】

噴煙活動は引き続き活発で、二酸化硫黄の放出量は今期間に実施した観測では 1 日あたり 1,800 ~ 4,000 トンで、依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

13 日に第三管区海上保安本部が、28 日に海上自衛隊が上空から行った観測で、付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル 2）】

地震活動、噴煙活動ともにやや活発な状態が続いている。

口永良部島 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震のやや多い状態が続いている。

【期間中に静穏な状況となった火山】

浅間山 【静穏な状況（レベル1）】 22日に[やや活発な状況（レベル2）]から引き下げ
火山性地震や火山性微動の発生回数、火山ガス放出量が低下するなど火山活動は静穏な状態になったことから、22日にレベルを2（やや活発な状況）から1（静穏な状況）に引き下げた。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

箱根山 【静穏な状況】
9月27～28日と10月2～3日（期間外）に地震が一時的にややまとまって発生したが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過している。

【静穏な状況であった火山】

（北海道地方）

雌阿寒岳、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山

（東北地方）

岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山（レベル1）、安達太良山、磐梯山

（関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島）

那須岳、草津白根山（レベル1）、新潟焼山、焼岳、御嶽山、白山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島（レベル1）、八丈島

（九州地方）

九重山（レベル1）、阿蘇山（レベル1）、雲仙岳（レベル1）、霧島山（新燃岳）（レベル1）、霧島山（御鉢）（レベル1）

過去1年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年			平成18年									
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
雌阿寒岳	活動													
十勝岳	活動													
樽前山	活動													
吾妻山	活動 レベル													
草津白根山	活動 レベル													
浅間山	活動 レベル													
伊豆大島	活動 レベル													
三宅島	活動													
福德岡ノ場	活動													
九重山	活動 レベル													
阿蘇山	活動 レベル													
雲仙岳	活動 レベル													
霧島山(新燃岳)	活動 レベル													
霧島山(御鉢)	活動 レベル													
桜島	活動 レベル													
薩摩硫黄島	活動 レベル													
口永良部島	活動 レベル													
諏訪之瀬島	活動 レベル													

活動状況(活動)

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- : 小規模な噴火が発生かその可能性 (吾妻山、草津白根山、浅間山、雲仙岳では「小～中規模噴火が発生かその可能性」、桜島では、「活発な火山活動」)
- : やや活発な火山活動 (桜島では、「比較的静穏な噴火活動」)
- : 静穏な火山活動

平成18年9月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅間山	火山観測情報第35号	1日 16:00	8月25日～9月1日15時の活動状況。8月29日に実施した火山ガスの観測結果。レベルは2。
	火山観測情報第36号	8日 16:00	1日～8日15時の活動状況。レベルは2。
	火山観測情報第37号	15日 16:00	8日～15日15時の活動状況。11日に実施した火山ガスの観測結果。レベルは2。
	火山観測情報第38号	22日 14:00	火山活動は静穏な状態になったことから、火山活動度レベルを2から1に引き下げた。定期的な発表は本号をもって終了。
三宅島	火山観測情報第244～273号 (1日1回発表)	毎日 16:30	最近の火山活動評価、前日16時～当日16時の活動状況及び上空の風の予想。5日、11日、28日に行った火山ガスの観測結果。

世界の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）9 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

スーフリエール・ヒル火山（西インド諸島モンセラット島、イギリス領）（図中A）

8 月末に西側斜面に生じたあらたな火口から小爆発を伴う火山灰噴出が活発になり、噴煙は海拔 4 km に達した。噴煙柱が崩壊して火砕流が発生し、山頂溶岩ドームの四方に流下した。主なものは西側の谷を流れ、流下距離は 1 km に達した。9 日から 14 日にかけて、溶岩ドームの成長が著しくなり、11 日には、ドーム先端の崩落による火砕流が発生し、北東側の谷を流下した。下旬にも小規模な火砕流が多発し、28～29 日には、南側山麓の集落で少量の降灰があった。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

